

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：平成 18 年度～平成 20 年度
 課題番号：18720166
 研究課題名（和文） 鎌倉時代の地域社会における軍事警察機能の研究
 研究課題名（英文） The study of the low enforcement system
 研究代表者
 氏名（アルファベット） 西田 友広（NISHITA TOMOHIRO）
 所属機関・所属部局名・職名 東京大学・史料編纂所・助教
 研究者番号 90376640

研究成果の概要：

中世国家のあり方を明らかにするための素材として軍事警察機能について検討し、特に荘園領主や地頭・村落共同体などが担った、地域社会における軍事警察機能の実態について、幕府・朝廷との関係を意識しながら明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	500,000	0	500,000
2007 年度	400,000	0	400,000
2008 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,200,000	90,000	1,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・鎌倉時代・検断・地域社会

1. 研究開始当初の背景

幕府に軍事警察機能を委譲したと考えられていた朝廷が、実際には独自の軍事警察機能を果たしていたことが明らかとなり、これまで中世国家のあり方について通説的であった権門体制論に再検討の余地があることが明らかとなった。しかし、これらの研究は制度的な視点からのものであり、特に、荘園領主や地頭・村落共同体における軍事警察機能の実態について、幕府・朝廷との関係を意識しながら明らかにする事が必要であった。

2. 研究の目的

幕府・朝廷の下のレベルにある、荘園領主や地頭・村落共同体などにおける軍事警察機

能のあり方について研究を進める。

3. 研究の方法

幕府・朝廷の下のレベルにある、荘園領主や地頭・村落共同体などにおける軍事警察機能については、まとまった史料が少ないため、断片的な史料を収集し、整理・分析する。これについては、これまでの研究を踏まえ、従来知られている史料を再び悉皆的に調査すると共に、新たな史料の発掘にも努める。

このようにして収集した史料を通じて、地域レベルにおける軍事警察機能の実態を明らかにする。

4. 研究成果

幕府の下で、実際に諸国で軍事警察機能を担う守護について、石見国の在職状況を明らかにし、また地域社会における守護代・守護使の活動と幕府訴訟制度の関係について明らかにした。

朝廷についても、その軍事警察機能の実態について、寺社世界・地域社会を例に具体的に明らかにするとともに、幕府との関係の展開について論じた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

西田友広、「鎌倉時代の石見国守護について」、『鎌倉遺文研究』20、86～95頁、2007、査読有

西田友広、「鎌倉幕府の検断訴訟手続きと注進状」、『古文書研究』64、16～30頁、査読有

西田友広「鎌倉後期の石山寺と権門寺院」、『東京大学史料編纂所研究紀要』18、27～35頁、査読無

西田友広「衾宣旨補論 その効力について」、『鎌倉遺文研究』23、46～62頁、2009、査読有

[学会発表](計 1 件)

西田友広「衾宣旨補論 その効力について」、『鎌倉遺文研究会、2007年12月20日、於早稲田大学

[図書](計 4 件)

五味文彦・本郷和人・西田友広ほか『現代語訳 吾妻鏡 1 頼朝拳兵』、吉川弘文館、2007、210頁

五味文彦・本郷和人・西田友広ほか『現代語訳 吾妻鏡 3 幕府と朝廷』、吉川弘文館、2008、232頁

五味文彦・本郷和人・西田友広ほか『現代語訳 吾妻鏡 4 奥州合戦』、吉川弘文館、2008、214頁

五味文彦・本郷和人・西田友広ほか『現代語訳 吾妻鏡 5 征夷大將軍』、吉川弘文館、2009、269頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

西田 友広 (NISHITA TOMOHIRO)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号 90376640

(2)研究分担者

(3)連携研究者